



# カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

## 第1部：『ポストデジタル時代のオリジナルとコピー』

デジタル技術の普及に伴い、コピーやコピペは当たり前のことになっています。消費社会における「オリジナルなきシミュラクル（模倣）」は、もはや当然の存在となりました。現代アートにおいても、アプロプリエーション（流用・盗用）がやや腐れたとはいえ、従来のオリジナル信仰は相対的に位置が低下してきています。一方、日本文化においては、複製や反復が西洋とは異なる価値を持っているように思えます。伊勢神宮の式年遷宮は、その一例かもしれません。時代の変遷について、東西の価値観の違いについて、ふたりの美学研究者が意見を交わします。

## 第2部：『空間から映像へ／映像から空間へ』

さまざまな領域で映像が多用されるようになり、映像の可能性は、この

数十年の間に劇的に広がりました。映像はスクリーンから独立し、解放され、新しいアプローチと語りの形が生まれています。映画館ばかりでなく、建造物の内外における映像の使用も増え、「建築」とも大きく関わるようになってきました。映像と空間の関係は今後どうなるか？ 映像とアートのさらなる融合の可能性とは？ 制作中の映画の物語構造をインストールという物理的な形式でも具体的に表現する映画監督が、映像の可能性を追求する現代アーティストユニットと語り合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



© Volker Renner

**メルレ・ラートケ** (キュレーター、作家)  
**Merle Radtke** (Kuratorin und Autorin)

1986年生まれ。ハンブルクで美術史、文化人類学、博物館経営論を学び、2015年よりハンブルク美術大学大学院博士課程バーチャル美学研究科奨学生。研究テーマは、(ポスト)デジタル時代におけるアプロプリエーション。多数の出版物の刊行に関わり、ハンブルク美術館等でキュレーターも務める。ヴィラ鴨川滞在中は、伊勢神宮の式年遷宮などを例に、日本文化における複製と反復について考察する予定。



**カアン・ミュージデジ** (映像作家)  
**Kaan Műjdeci** (Filmemacher)

1980年トルコ生まれ。2003年にベルリンに移住後、ニューヨーク・フィルムアカデミーにて映画制作を学び、2010年にプロダクション会社「Coloured Giraffes」を設立。『Sivas (シヴァス)』(2014年)は、ヴェネツィア国際映画祭で審査員特別賞を受賞。ヴィラ鴨川滞在中は、ある家族を扱うフィルムプロジェクト『Iguana Tokyo』の枠組みで、仮想現実 (VR) や自身が考案したゲームのコンセプトをもとに、インストールーションを制作する予定。sivasfilm.com



**篠原 資明** (哲学者、詩人、美術評論家)  
**Motoaki Shinohara** (Philosoph und Autor)

高松市美術館館長、京大名誉教授、京都市立芸術大学客員教授、国立美術館運営委員、「まぶさび庵」主宰。哲学者としては、あいだ哲学を提唱し、詩人としては、方法詩を提唱・実践する。また、1980年代から現代アートの批評・展覧会の企画などにも携わる。著作に、『空海と日本思想』(岩波新書)、『差異の王国 - 美学講義』(見洋書房)、『まず美にたずねよ - 風雅モダンへ』(岩波書店)など多数。



© Alice Wong

**SHIMURAbros** (映像作家、美術家)  
**SHIMURAbros** (Bildende Künstler)

SHIMURAbros (シムラブロス) は、ユカ (1976年生まれ) とケンタロウ (1979年生まれ) による姉弟ユニット。新たな映像装置の発明により既存の枠をこえたイメージの実体化を企てる。第13回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。カンヌやベルリン国際映画祭での上映をはじめ、ウィーン、台北など、国内外で活躍。2014年ポーラ美術振興財団の助成を受け拠点をベルリンに移し、現在はオラファー・エリアソン・スタジオ 研究員として活動中。shimurabros.com



**小崎 哲哉** (司会、構成)  
**Tetsuya Ozaki** (Moderator)

1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART iT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーマンス統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行予定。realkyoto.jp

© Merle Radtke



主催・お問い合わせ

**Goethe-Institut Villa Kamogawa**

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分  
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



**GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA**